

San-iku 通信



ご自由にお持ちください。

2015 SPRING

Vol. **05**

社会福祉法人 賛育会 広報誌
さんいく通信

News
特集

東海清風園

糖尿病 ～適度な食事、適度な運動を！
健康でおいしく ～スープレシピ
賛育会ヒストリー ～第二章 第一話



河津桜で桜花見



地域の秋祭り



敬老祭

特集

東海清風園

静岡の地に根付いて63年。地域との関わりを大切に笑顔と安心に満ちあふれた施設を目指して

関わるすべての方が笑顔になれるような、サービスを目指しています。

静岡県南部に位置する御前崎市と賛育会の関わりは、1952年旧浜岡町池新田に、地域の要望に応えた東海病院の設置に始まります。当時は地域に根付いた医療の拠点として、地域の医療を担ってきました。そして1971年に、近隣21市町の要請と多大なご支援を頂き、県内4番目の特別養護老人ホーム『東海清風園』が誕生しました。当時は東海病院に隣接して建てられ、医療面で連携のとれた施設として、心強いものでした。その後、地域の要望に応じて増床を重ね、1979年(昭和54年)に定員170名の県内最大の施設となりました。

当時より地域の皆様とともに過ごし、医療・福祉サービスを提供してきました。東海清風園が開設し、今年4月で44周年となります。その間、時代と共に変化していく「期待」を「使命」と受け止め、老人ホームという入所サービスだけでなく、各種在宅サービスにも力を注いできました。地域社会の声を聴き、私たちの使命や役割を見極め、それを確実に実践していかなければならない存在だと思っています。

現在東海清風園では、特別養護老人ホーム、池新田デイ

サービスセンター、佐倉デイサービスセンター、在宅介護支援センター(ひだまり支援センター)、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、東海診療所と、多面的に事業を営んでいます。併せて配食サービスや、移送サービスなども行い、地域の高齢者に密着した事業所として活動しています。

施設活動では、毎年7月最後の土曜日に行われる「夏祭り」には、駐車場に櫓を組み、それを囲んで盆踊りが行われます。模擬店や出し物も行われ、施設入居者やご家族だけでなく、地域住民の皆様も参加され、大変盛り上がる行事となっています。

静岡の地に賛育会が根付いて63年を迎え、今までも、そしてこれから先も、地域の為にあり続ける施設として努力していきたいと考えています。



夏祭りの盆踊り

海と緑と笑顔がきらり輝く街「御前崎市」



静岡県南部、駿河湾に突き出た御前崎に位置しており、温暖な気候を利用した野菜・茶・花卉(かき)・果物の栽培が盛んで、畜産も行われています。重要港湾に指定された御前崎港はカツオ・マグロ遠洋

漁業の基地で、サワラ・シラスなどの近海・沿岸漁業も行われています。中部電力の浜岡原子力発電所があり、県最南端の岬にある御前崎灯台は、日本の灯台50選に選ばれています。



■インフォメーション
特別養護老人ホーム 東海清風園
 TEL:0537-86-3286
 静岡県御前崎市池新田4094
 ■Webサイト
https://www.san-ikukai.or.jp/tokai/tokai_seihuen/index.html

知っ得! ケア

糖尿病

適度な食事、適度な運動を!



糖尿病は、血液中のブドウ糖の濃度(血糖値)が高い状態が長期間続く病気です。血糖値を下げるインスリンというホルモンの量が不足したり、働きが悪くなったりすることで起こります。

人間は食べ物や飲み物が消化・分解されて出来るブドウ糖をエネルギー源にしています。インスリンは食後に血糖値が上がり過ぎないようにブドウ糖の量を調節したり、ブドウ糖を細胞に送り込んで活動エネルギーに変えるなどの働きをしています。

しかしインスリンが不足したり働きが悪くなると、体の細胞にうまくブドウ糖を取り入れることができなくなり、エネルギーが筋肉や内臓に届かなくなります。

糖尿病になり血糖値が高い状態が続くと、徐々に全身の血管に障害が起こります。これに伴って、心筋梗塞や脳卒中中のリスクが高まるなど、様々な合併症が現れます。

糖尿病の治療は、まず食事療法と運動療法を行い、それでも数値が改善されない時は薬物療法で血糖コントロールを行います。

食事については、野菜を多めに取りバランスよく腹八分目までにしましょう。朝食抜きやまとめ食いは避けたほうが良いです。

運動については、1週間で60分程度(週2回30分も可)の息が弾む程度の運動(ジョギング、テニス等)をするようにしましょう。

早期発見と早期治療で適正な血糖値を保つことにより、糖尿病の重症化と合併症の発症は予防できます。自覚症状がないからといって未治療のまま放置したり、治療を途中で中断しないようにすることが重要です。



グリーンピースポタージュ

手軽でおいしい、あったかスープ

■材料(2人分)

グリーンピース	150g	牛乳	200ml
玉ねぎ(薄切り)	100g	バター	10g
コンソメ	3g	塩、こしょう	少々
		水	150ml

■作り方

1. 豆の臭みを和らげる為に、グリーンピースはさっと湯通ししてからザルにあげる。
2. 鍋を火にかけてバターを溶かし、グリーンピースを入れて30秒程中火で炒める。
3. 薄切りにした玉ねぎを加え、焦げないように注意しながら炒める。
4. 玉ねぎが透き通ってきたら水を加え、煮立ったらコンソメを入れて蓋をし、弱火で10~15分煮る。
5. 冷ました4.と牛乳をミキサーに入れて、なめらかになるまで攪拌する。
6. なめらかになったら、鍋に移して弱火にかける。
7. 沸騰直前に火を止め、塩・こしょうで味を調える。

グリーンピース以外にも旬の野菜(空豆、トウモロコシ、さつま芋、かぼちゃ、じゃがいもなど)でもアレンジしてみてください!

(レシピ提供:東海清風園 管理栄養士 天野聖子)

賛育会ヒストリー

賛育会の歴史物語

第二章 賛育会を支えた人々



木下正中氏、明治2年8月19日生まれ。若狭(福井県)出身。東京帝国大学医学部を卒業後、ドイツへ留学。明治36年東京帝国大学医科大学産科学・婦人科学教室主任(現在の教授職)に就任。日本の産婦人科界の先駆として活躍した。

そんな木下と賛育会との出会いは運命的なものがあった。大正6年9月に東京帝国大学を退職すると、それを機に欧米視察へ行き社会事業についても多くを視察した。その中で『老後の仕事として、「下層者」のための産院を作ってみたく考えた』と、帰国後の大正7年初頭、東大基督教青年会(東大YMCA)において、医学部の人の集まりで話したことがあった。その話を契機に木下の所へ相談に訪れたのが、賛育会の前身ともいえる「大学青年会医院」で診療活動に従事する河田茂であった。活動の場を広げようと漠然とした計画を語る河田の話聞き、語られたのが冒頭の言葉である。

第一話 初代理事長 木下正中

「一つ応援しようではないか、そして俺の考の実現に協力してくれないか」
ここでわが賛育会の生れ出る受精作用が行われたと見るべきだ。

(第3代理事長 藤田逸男著 賛育会物語より抜粋)

木下と当時、東京帝国大学で教鞭をとっていた吉野作造の協力を得て、大正7年3月16日設立発起人会を開き、かくして賛育会は産声を上げたのであった。

賛育会創設期における木下の役割はきわめて大きく、その体を成すにあたっては、木下なくして成しえなかつたとも言える。

大正8年に賛育会が診療所での働きを拡大し、日本初の庶民の為の産院『賛育会本所産院』を建設する際も、その資金のほとんどを、木下独りの働きによって調達されたといつて過言ではない。また、賛育会を支える運営資金を集める為、帝国劇場で興行を開いた時も、「あの帝大の木下先生が何か始めたぞ」と人々に知れ渡り、その席を満席に埋めたこともそうである。大正12年の関東大震災からの復興時に、ロータリークラブからの寄付に添えて「木下博士の賛育会に」とあったことから、その名声が見て取れる。

大正15年9月10日、賛育会は初代理事長を木下正中とし、財団法人として組織の装いを新たにした。しかし、自身が院長を勤める浜町病院の震災復興に勤しむ中、第1回理事会にてその職責を吉野作造に譲り、木下は評議員として賛育会を支え続けた。



平成27年度 介護保険改正について

平成27年4月より、介護保険制度が改訂されることになりました。2025年度に向けて、地域で高齢者を支える「地域包括ケアシステム」の構築を実現していく為、中重度の要介護者や認知症高齢者への対応の更なる強化、介護人材確保対策の推進、サービス評価の適正化と効率的なサービス提供体制の構築を目的としたものです。また、増え続ける社会保障費を抑える為、介護事業の報酬は軒並み減額される一方で、職員の賃金の改善など処遇改善加算は引き上げられることになり、全体平均でマイナス2.27%の改訂率となりました。

改訂の主な内容は次のとおりです。

1. 地域包括ケアシステムの構築

高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにするため、介護、医療、生活支援、介護予防を構築する。

- ① 地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業の充実。(在宅医療・介護連携・認知症施策・地域ケア会議の推進)
- ② 全国一律の要支援者へのサービスを市町村が取り組む地域支援事業に移行し、地域の実情に合わせて展開できるようにする。
- ③ 特別養護老人ホームの新規入所者を、原則、要介護3以上に限定する。(現在の入所者は除く。また要介護1,2でも特別な理由がある場合には入所可能)

2. 費用負担の公平化

低所得者の保険料軽減を拡充する。また、保険料上昇をできる限り抑えるため、所得や資産のある人の利用料負担を見直す。

- ① 低所得者の保険料の軽減割合を拡大する。
- ② 一定以上の所得のある利用者の自己負担を引き上げる。
- ③ 低所得の施設利用者の食費・居住費を補助する「補足給付」の要件に収入だけでなく資産なども追加する。

この他、「2025年を見据えた介護保険事業計画の策定」、「サービス付高齢者向け住宅への住所地特例の適用」、「居宅介護支援事業所の指定権限の市町村への委譲・小規模通所介護の地域密着型サービスへの移行」等が実施されます。詳しくは、お近くの役所等にお問い合わせください。

アラカルト

賛育会グループ施設より
年始の便りがやってきました。



はなみずきホーム(東京都墨田区)



マイホーム新川(東京都中央区)

新年を迎えて、賛育会グループ施設ではさまざまなイベントが開催されました。

はなみずきホームでは、寿司職人が施設でお寿司を握ってくれて、皆さん笑顔で大満足。マイホーム新川では施設に職員お手製の立派な鳥居があり、皆さんお参りされていました。

San-iku 通信 Vol.05 2015年 春号
編集発行人: 西原 良信
発行所: 社会福祉法人 賛育会
東京都墨田区太平3-17-8 電話: 03-3622-7614
印刷: (有)エースプリント

賛育会ホームページ <http://www.san-ikukai.or.jp/>



町田事業所

あんしん相談室&居宅介護支援
事業所を開設しました

法人内で3箇所目となるシルバー交番事業、「野津田あんしん相談室」を1月13日に開設しました。あんしん相談室は高齢者見守り支援を主に行なう、地域包括支援センターと連携して実施する事業です。2月1日には「第二清風園居宅介護支援事業所かわせみ」も開設し、町田市野津田町の一戸建て住宅に事務所を構え4名のスタッフで相談をお受けしています。1日も早く地域の皆様から信頼される相談窓口となれるよう努めていきます。



Hello!
ホスピタル
賛育会病院

Vol.05

小児科のご案内

子供好きな医師がお待ちしております!

子供に優しい医療を



私たち小児科医は子どもの代弁者(アドボカシー)として、子どもの健康を最優先に考え、子どもにも『優しい』医療を心がけて診察に当たっており、早産児(1000g程度)から中学校を卒業する15歳(180cm80kgオーバーといった成人並みのお子様

もいます)まで、幅広い年齢の子ども達を診察しています。疾患別では感染症、アレルギー疾患(食物アレルギー、アトピー性皮膚炎など)、呼吸器疾患(気管支喘息、肺炎など)、消化器疾患、などなど小児の病気であれば一通り対応しており、入院が必要な場合、小児病棟(17床)に入院していただき、お子様やご家族の方々と協力しながら診療にあたらせていただきます。もし病気が重く、大学病院や専門施設での治療が望ましいと診断した場合、責任を持って適切な施設に紹介させていただきますのでご安心ください。また共働きのご家庭も多く、入院付き添いが困難な場合はお預かりで対応させていただく事も可能ですので、その場合には一度担当医に相談いただければ幸いです。

また新生児集中治療室にはNICU施設基準を満たす6床を備えており、東京都地域周産期母子医療センターの一つとして、24時間365日新生児の救急医療にあたっています。小児医療スタッフは子ども好きが多く、また丁寧に説明する事を心がけています。もし当院を受診された際、不安な事やわからない事がありましたら気軽にお尋ねください。